

作物の青枯病菌検査

〈対象作物〉

野菜類、花き類、タバコ

青枯病

- 病原** *Ralstonia solanacearum* (細菌)
- 感染** 土壌伝染、汁液伝染、水媒伝染
- 症状** 日中に生長点が萎れ、次第に株全体が萎れる。葉が青いまま萎れるのが特徴。茎の導管が褐変する。
- 主な作物** トマト類、ナス、ピーマン、花き類など



デルフィニウム



リシアンサス



ナス

このような場合におすすめです！

- ・ 茎葉部が青いまま日中萎れ、夕方回復する
- ・ かたまって萎れが発生している
- ・ 過去に青枯病が発生した
- ・ 青枯病の耐病性台木を使用しているのに萎れる
- ・ 隔離栽培なのに萎れる
- ・ 青枯病かどうか明らかにしたい



トマト



トマト 茎の導管褐変

検体の送付方法 常温便(夏季高温期はクール便)

青枯病菌 感染検査のみ

- ・ 地上部全体

症状がみられる植物体の地上部を袋に入れ密閉する。なお、地際の茎を切断する際は、清潔な刃物を使用し、切り口は十分湿らせたティッシュで包む。

株が小さい場合は、根を含めた株全体をお送りください(下記参照)。

青枯病菌 以外の病害も診断する場合

- ・ 根を含む株全体

土壌が茎葉部に付着しないよう、根を湿らせた紙で包んでビニール袋に入れ、更に株全体をビニール袋に入れ密閉する。具体的な手順は、「病害虫診断 検体の送付方法」をご参照ください。



検査の方法

【イムノクロマト法】

イムノクロマト検査キットを使用して検査します。



陰性

陽性

報告書

- ・ 青枯病菌の感染を検査したうえで、最適な対応策を提案します。
- ・ 検体の受領から結果のご報告まで、7～10日程度かかります。



注意事項

乾燥・枯死した検体は、検査できません。

